

あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育推進大会 実施報告



日 時：平成26年11月19日（水）

場 所：青森県総合学校教育センター

平成26年度あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育推進大会 実施要項

- 1 **趣 旨** キャリア教育を進めていくうえで、学校での学びを深めること、地域からの支援を進めること、家庭での学びを高めることが大切である。そこで教職員、企業・事業所・NPO等の方、地域住民、行政職員が一堂に会し、講演や意見交換を通じて学校・地域・家庭の連携によるこれからのキャリア教育の在り方について考え、新たな実践への第一歩となることをめざす。
- 2 **主 催** 青森県教育委員会
- 3 **対 象** 学校教職員、PTA関係者、企業・事業所・NPO等の職員、県及び市町村職員、キャリア教育や教育支援活動に関心のある方
- 4 **日 時** 平成26年11月19日（水） 10:00～16:00
- 5 **場 所** 青森県総合学校教育センター
青森市大字大矢沢字野田 80-2 TEL:017-764-1997

6 内容及び日程

- (1) 開会行事 10:00～10:10
- (2) 「あおもりキャリア教育応援企業表彰」表彰式 10:10～10:40
- (3) 基調講演 10:50～12:10
講 師 平田 節子 氏（一般社団法人まなびの応援団 代表）
内 容 「子どもも大人も楽しんで関わる地域でつくるキャリア教育」

(※休憩・昼食 12:10～13:10)
- (4) 提案！我が社の教育支援 13:10～14:10
- (5) パネルディスカッション 14:20～15:50
テーマ 「これからのキャリア教育について考える
～つながる未来への第一歩～」

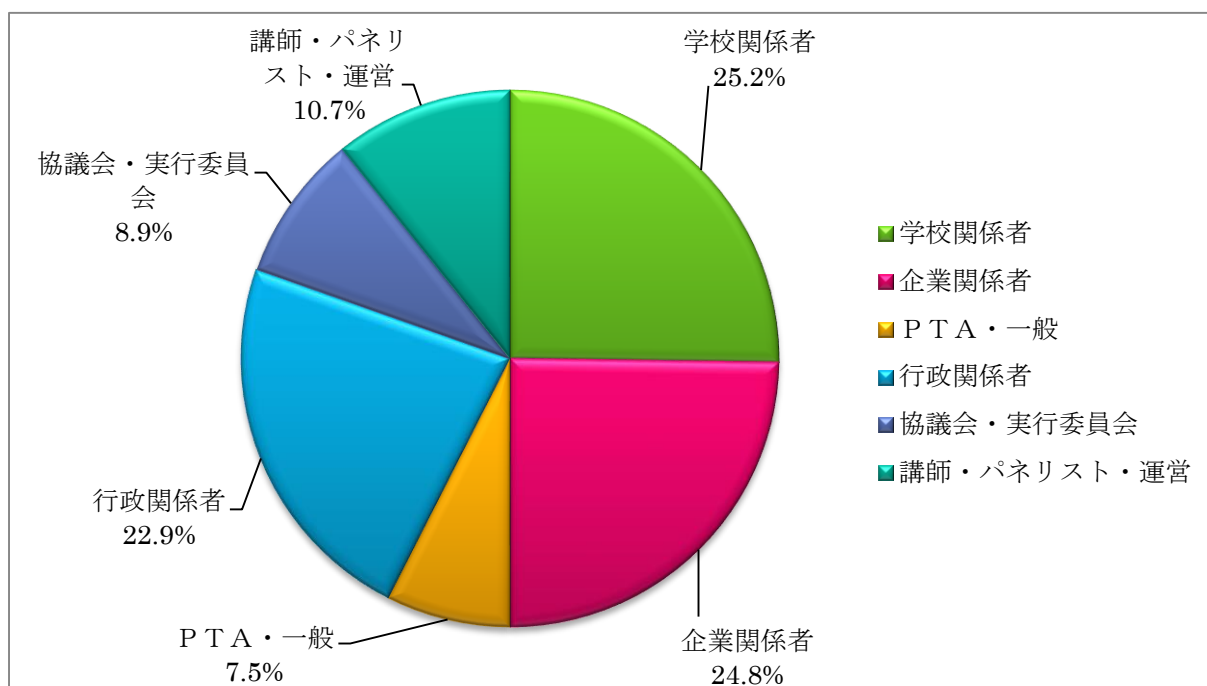
コーディネーター 平田 節子 氏
パネリスト 恒川 かおり 氏（特定非営利活動法人未来図書館主任コーディネーター）
永澤 正己 氏（前板柳町立板柳中学校校長）
竹園 正敏 氏（あおもりで「生きる・働く」を学ぶ下北地区実行委員会委員長）
住吉 治彦 氏（青森県高等学校PTA連合会会長）
田中 歌織 氏（田重菓子舗店主）
- (6) 閉会行事 15:50～16:00

10:00～	10:10～	10:50～	12:10～	13:10～	14:20～	15:50
開 会 式	あおもり キャリア 教育応援 企業表彰 表彰式	基調講演 講師：平田 節子 氏 内容：「子どもも大 人も楽しんで関 わる地域でつく るキャリア教育」	昼食 ・ 休憩	提案！ 我が社の 教育支援	パネルディスカッション テーマ：「これからの キャリア教育につい て考える～つながる 未来への第一歩～」	閉 会 式
10分	30分	80分	60分	60分	90分	10分

1 参加者・参集者数

学校関係者	企業関係者	P T A 一般	行政関係者	協議会 実行委員会	講師 パネリスト 運営スタッフ	参集者数 総計
54	53	16	49	19	23	214
参加者数 191						

(1) 参集者の割合



2 開会行事

教育長挨拶

あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育推進大会の開会にあたり一言御挨拶申し上げます。

本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。皆様方には、日頃から学校、家庭、地域において、子どもたちの教育に御尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、県教育委員会では、新たな「青森県教育施策の方針」と「青森県教育振興基本計画」に基づき、「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を目指し、各種施策を展開しているところです。

青森県の未来を担う子どもたちが、ふるさとに愛着と誇りを持ち、チャレンジ精神にあふれ、たくましく成長するためには、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を自覚しつつ、連携・協働して取り組むことが何よりも大切です。

県教育委員会では、今年度の「施策の柱」の一つとして「生きる・働く・学ぶをつなぐ」取組の推進による「キャリア教育の推進による人財育成」を掲げ、関係機関等と連携しながら子どもたちの社会人・職業人としての自立に向け取り組んで参りました。

本大会は、これまでの取組を踏まえ、皆様と一緒にこれからのキャリア教育の在り方について考え、新たな実践に向けた第一歩となることをめざして開催するものです。

本大会が、皆様にとって実り多きものになり、本県のキャリア教育の一層の充実が図られることを期待いたします。また、本日御参会の皆様が、今後とも心一つにして、未来を担う子どもたちのために御尽力してくださるようお願い申し上げます、開会の挨拶といたします。



平成26年11月19日

青森県教育委員会

教育長 中村 充

3 「あおりキャリア教育応援企業表彰」表彰式

(1) 次第

- ・「あおりキャリア教育応援企業表彰」の概要説明
- ・表彰状授与
- ・講評 青森県キャリア教育推進協議会 会長 田中 哲

(2) 被表彰企業・事業所等一覧

- ① 有限会社石持グランドファーム（東通村）
- ② 青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ（青森市）
- ③ 障害者支援施設 津麦園（青森市）
- ④ あおり中小企業人材支援センター（青森市）
- ⑤ 有限会社つたや会館・ホテルグランヒルつたや（三沢市）
- ⑥ 社会医療法人 博進会 南部病院（南部町）
- ⑦ ローソン弘前茂森町店（弘前市）
- ⑧ イマジン株式会社 弘前パークホテル（弘前市）
- ⑨ 株式会社 ビジネスサービス（青森市）
- ⑩ 株式会社 竜飛精工（五所川原市）
- ⑪ 青森水族館管理株式会社（青森市）
- ⑫ 特定非営利活動法人 つがる夢庭志仙会（つがる市）
- ⑬ 八戸工業大学（八戸市）
- ⑭ 青い森鉄道株式会社（青森市）

(3) 表彰式の様子



4 基調講演

(1) 講演の概要

- ・キャリア教育にしかめっ面は似合わない
大事なことは、生きることは楽しい、大人になることは楽しみだということ
を子どもたちに伝えること。必要なことは、様々な体験活動を通じての驚き、
学び、出会い、褒められること、叱られること、郷土を知ること。
- ・キャリア教育に関わるきっかけについて
リクルートに入社後、しばらくして突然制作部門に転勤になった。文章を書
く仕事、残業の多さに不満があったが、一生懸命続けるうちに面白くなり、多
くの働く人取材する中で、モノづくりで働く人がカッコイイと思うようになっ
た。29歳で独立し、求職者（大学生）側の視点で求人広告を制作するようにな
った。この経験を生かし12年前に市民講師を派遣するアスクネットに参画。
キャリア教育に出会ったのが2007年、経産省の「地域自立・民間活用型
キャリア教育プロジェクト」で、ライターとして各地の実践を取材した。
現在は、アスバシ教育基金にも携わり、企業と学校をコーディネートする活
動に対し資金面での支援を行う活動にも参加している。
- ・現在、48歳でもう1回独立し在宅医療に関わる仕事を行っている。
医療と介護は患者のために多業種の連携ができてきている世界である。これか
らの未来を担う子供たちのために、多業種の方々がサポートする体制が無いのは
疑問である。
- ・あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育実践事業は、学校・家庭・
地域でみんなでキャリア教育をやっていきましょうという事業で、みんなが
同じ方向を見て支援を行っていくことが大事である。これは全国の願いでも
ある。
- ・文科省のキャリア教育の定義について再確認
キャリア教育に必要なことは能力（基礎的、汎用的能力）や態度を育てること。

「人間関係形成能力」・・・企業は重視している
「自己理解」・・・自分が思う自分と他人から見える自分にギャップがある
「課題対応能力」・・・解決できない課題にも対応していくことが求められる
「キャリアプランニング能力」・・・自分の将来（職業）を組み立てていく力

このようなことは、昔は言われなかった。これからの時代は今の大人も知ら
ない時代、どんどん変化していく。
- ・子どもたちを取り巻く現状
毎年高校に入学する120万人の子どものうち、順調に就職して3年辞めず
に仕事を続けられるのは48万人（4割）。15歳～39歳の若年層3600
万人のうち、無業者は230万人。つまり16人に1人という計算になり、ク
ラスに置き換えるとクラスの2～3人は無職になる可能性がある。また、大卒

で正社員として順調に就職し、仕事し続けていけるのは31%である。

31%の中に入るよう生徒を育てるという発想を改めて、69%の若者が、何らかの偶然で、中退したり、失業したりした時にどのように対応すべきかを考えることが大事である。

- ・現在の日本は人口減少期に突入している。
人口が減っても成熟していく社会を考えていくべきである。子どもたちを常に成長、生き抜くと駆り立てるのではなく、子どもたちの将来には成熟した時代が待っていると伝えたい。
- ・人生は思っていた通りにはならない。
失敗ややり直しをダメと考えるのではなく、その際に対応して乗り越えて楽しんでいけるようにすればよい。
- ・子どもたちには、いろんな価値観・考え方をを持った大人がいることを先生方はバランスをとって伝えることが大事。
- ・何よりも大切なことは、生きていく根底には希望がある。
こんな仕事をしたい、こんな人と一緒に、この土地で行きたいなど…希望があれば、誰か一人憧れる大人がいれば子どもたちは生きていける。
- ・また、自分だったらこれができそうという自己効力感も大事である。
今の子どもは進学すればするほど付きたい職業・目標をなくしている。現実を分かっている中で、職業を知らないのに選べというのも無理がある。子どもたちには多様な社会、価値観があることを解ってもらうのもキャリア教育を行う我々の大切な役目である。

※自己効力感の4つの源

- 「生理的・情緒的高揚」…酒や薬物など、
- 「言語的説得」…言葉での励まし
- 「代理経験」…他人の経験を見聞きする、
- 「達成経験」…自分で何かを成遂げる

その中で「代理経験」として自分が頑張ったことを伝えることも大事で、他人の成功を見聞きすることで、自分もできる、頑張ろうという気持ちが生まれる。また、「達成経験」を思い出すことは、困った時に大事である、

- ・頑張ったことを聞いてもらうことは、人間関係を親密にし、語る本人に達成経験を思い出すことになり、力がみなぎってくる。子どもたちには、頑張ったことに語れるような経験を持たせることがキャリア教育で大切である。
- ・キャリア教育を進めていく上でプログラムをつくることも大事だが、子どもたちの達成体験は意図的には作りだせない。子どもたちにたくさんの経験をさせていく中で、偶然、大人が意図していないところで得ていくものである。
- ・子どもたちには、頑張っている大人を見せていくことが大事で、コーディネーターは光っている大人をたくさん子どもに出会わせることが大事である。
- ・学校は正解主義だが、社会は正解がない納得解の世界である。

今の子どもたちは前例をなぞって正解をつくるのがダメな社会に生きていく、失敗しても立ちあがって乗り越えていくこと、その中で氏合わせて生きていけると伝えることを、いろんな方法で経験させることが大事である。

- ・高校生に講演する時には、主体的になりなさいと伝える。目標や夢が無くても今を充実させ続けていくことで充実した人生になると伝えている。
- ・(ガンジーの言葉を引用しながら) キャリア教育に関わったのであれば、青森のために、子どもたちのために、やらされ感ではなく、自分で楽しんで、自分がいたから世の中を変えられるのだという思いで取り組み、そして自分の人生を輝かせて欲しい。

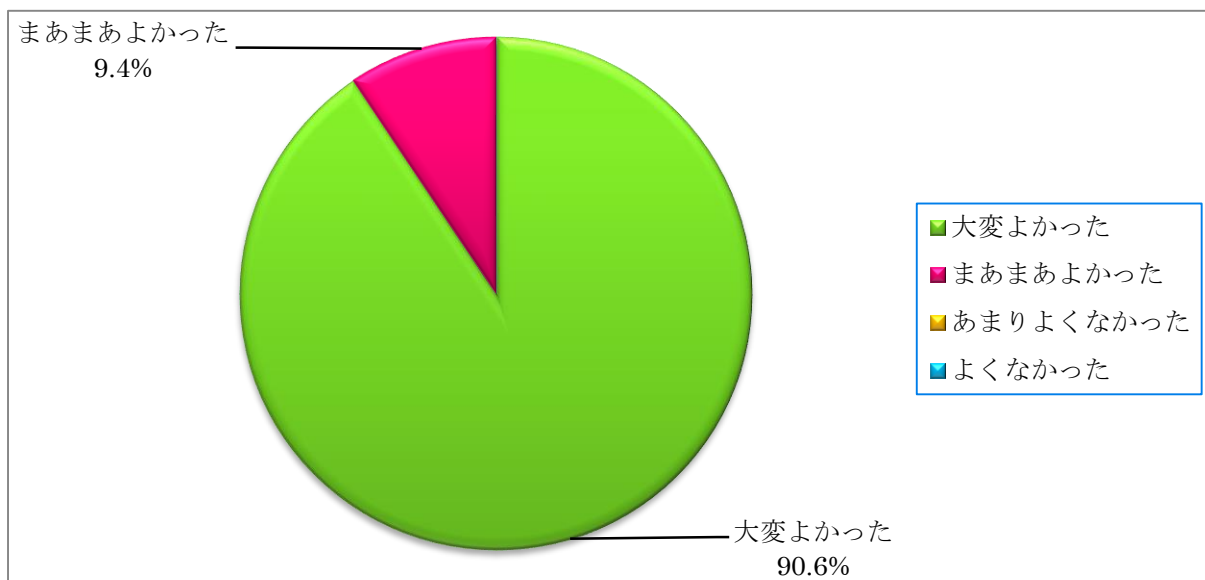
(2) 講演の様子



(3) アンケート集計

基調講演はいかがでしたか (有効回答数：64人)

大変よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	よくなかった
58人(90.6%)	6人(9.4%)	0人	0人



(4) 意見・感想など※自由記述

①学校関係者

- ・素敵な講演でしたので、教師も親も地域の大人全体が聴講したらよいと思った。
- ・元気をもらいました。ワークショップも参考になりました。
- ・キャリア教育をこれまでとは違う視点で考えることができるようになりました。子どもたちが将来に希望を持ち、今できることを一つずつふやし、自分に自信を持つことができるように教育活動を行っていきたいと思います。
- ・とてもすばらしかったので、質問の時間がもっとあってもよかった。
- ・思ったようにできなかった時に、それを乗り越えていこうとする気持ちを持たせるために、何をすればよいのかという発想でキャリア教育に取り組めば良いのだと分かりました。「成功だけが全てではない」という考え方が、とても参考になりました。
- ・ペアになっての活動（ワークショップ）もあり、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・キャリア教育を進める上での基本的な考え方を知ることができました。
- ・特に質問に対してのコメントが分かりやすかったです。
- ・プレゼンテーションが上手く、話に引き込まれました。また、自分もキャリア教育のために何かやらなきゃ、できることをやっけていこう、という気持ちを持つことができました。聞いてよかったです。
- ・今、明日からでも私にできるキャリア教育があると気付かせていただきました。子どもにたずさわる大人一人一人意識していくことが大事だと思いました。
- ・講師の方の生き方からキャリア教育の必要性を再確認できました。子どもたちへの指導の在り方も見直すことができました。大変勉強になりました。
- ・キャリア教育概論ともいべき分かりやすい内容で良かったです。
- ・キャリア教育のみならず、社会に対して前向きにとらえるように指導することが必要だと感じた。
- ・自尊心を高めるとか自己有用感を高めるなどと簡単に言うが、では、実際にどうすればいいの？となったとき「ヒーローインタビュー」（講演内で行ったワークショップ）のような具体的な手法があれば、育てやすいなと感じた。そういう意味で大変参考になった、お話しも分かりやすく、簡潔でとてもよかった。
- ・キャリア教育について、「夢」を持って生きていける子どもの育成が実は大切なことだと感じました。
- ・ワークショップは心地よく体験させていただきました。明日の職務に生かしたいと思います。

- ・今回のお話を聞かせて頂いたことが、私自身の「『生きる・働く』について考えるキャリア教育」になったと思いました。子どもだけでなく教師、家庭、社会が共に学び合えるようなキャリア教育をしていければ…と思いました。
- ・思考を転換して考えることの発見を感じました
- ・キャリア教育については、難しいもの、手間のかかるものと思っていましたが、先生のお話を聞いて考えが変わりました。離職・失業せざるを得ない社会の中で、なぜキャリア教育が必要なのかも良く分かりましたし、先生がおっしゃられたように、働く人ってカッコイイという事を子どもたちに伝え、気付かせていきたいと思います。様々な達成体験を子どもたちにさせていきたいと思います。
- ・キャリア教育というどうしても教員側が構える部分があるのですが、もっと楽に生徒と触れ合いながらキャリア教育をすすめていっていいのだと分かりました。
- ・「キャリア」とは成功体験だけでなく、過去の体験全てが「キャリア」であると改めて確信しました。
- ・学校に特化というよりはキャリア教育全般に係る内容で分かりやすかった。しかし学校関係者としては物足りなさを感じた。

②企業関係者

- ・キャリア教育に取り組む姿勢が解りやすいと思いました。子供たちに夢を与える内容でありたいと考え、今後の内容の参考にさせて頂きたいと思いました。
- ・子どもたちには変化に対応する力をつけさせたい。
- ・地域を支えていくためには、まず、大人の意識が変わらなければということを感じました。
- ・親の立場、また職場の指導の立場として初心に帰り改めて考える良い講演でした。特に昔と今の時代は違う今の時代に合った考え方をしていくことが必要だと思いました。

④行政関係者

- ・講師のキャリア教育に対する思いや考え方がよく伝わってきました。新しく一歩踏み出すには勇気が必要だと思うのですが、講師は自分を信じてそれを実践していて励みになりました。
- ・現状の社会にどう対応するか、どう生きていくか、つまづきをどう乗り越えるか、今学校でいわれているキャリア教育で不足しているところに気づかされたように感じました。参考になりました。
- ・小・中・高の年代に合ったキャリア教育の話がとてもよかった。教育サイドから企業へ入っていった話ではなく、企業サイドから教育サイドへ入ってきた話は貴重でよかった。また、教育にも造詣が深いと感じた。

- ・講演では実践事例（子ども or 大人の気づきの部分）の紹介がより多い方がさらに理解が深まると思った。
- ・印刷されてなかったスライドの資料が欲しいと思った。内容は参考になるものばかりで活用していきたい。

③ P T A 関係者、その他

- ・ヒーローインタビューは単純な自己紹介よりも相手が身近に感じられるようになり、良いと思った。
- ・「ヒーローインタビュー」など、活用したいと思うものがありました。子どもと接する時、お互い楽しく学び合いたいと思いました。
- ・特に高校、大学で就職にたずさわる教員の方に聞いて欲しいと思いました。今の子どもたちが見て生きている世界がかつては想像できなかったものであること、古びた大人の思い込みをひとまず置いて子どもに向き合う姿勢を学ぶことができました。
- ・キャリア教育に関して幅広い観点から説明されて内容が分かりやすかった。
- ・「キャリア教育」は学校教育のみで行われるものと以前習った記憶があり、その考えがなかなか払しょくできないままでした。今日の講演会で自分の考えはまちがっていなかったと改めて思いなおし、気持ちがすっと落ちました。「在宅医療」の話しをもっと聞きたかったです。

5 提案！我が社の教育支援

(1) 当日出展企業・事業所等

● 2階中研修室

No.	地区	企業・事業所・NPO等名
1	県域	青森県金融広報委員会
2	〃	株式会社みちのく銀行
3	〃	KDDI株式会社
4	〃	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
5	東青	日本銀行青森支店
6	〃	東北電力株式会社 青森営業所
7	〃	丸文さとう株式会社
8	〃	株式会社ビジネスサービス
9	〃	青森愛犬美容専門学校
10	〃	青森歯科技工士専門学校・青森歯科衛生士専門学校
11	〃	小山英語教室
12	〃	青森中央文化専門学校
13	〃	株式会社青森冠婚葬祭互助会

● 2階第5研修室

No.	地区	企業・事業所・NPO等名
14	西北	NPO法人かなぎ元気倶楽部
15	〃	NPO法人つがる夢庭志仙会
16	中南	ひろさき若者サポートステーション
17	上北	株式会社青森原燃テクノロジーセンター
18	下北	有限会社石持グランドファーム
19	三八	社会医療法人博進会 南部病院
20	〃	学職開発株式会社
21	岩手県	NPO法人未来図書館

● 1階大研修室前ロビー

No.	地区	企業・事業所・NPO等名
22	県域	株式会社明治 東北支社
23	中南	東奥信用金庫
24	上北	上北地区実行委員会
25	下北	下北地区実行委員会

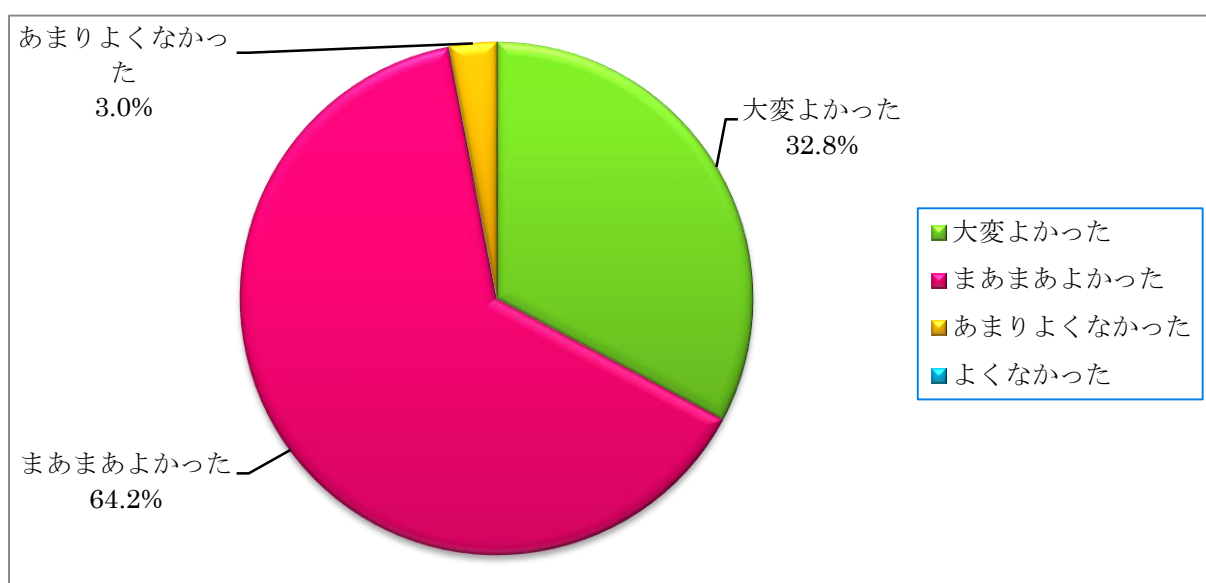
(2) 様子



(3) アンケート集計

「提案！我が社の教育支援」はいかがでしたか（有効回答数：67人）

大変よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	よくなかった
22人(32.8%)	43人(64.2%)	2人(3.0%)	0人



(3) 意見・感想など※自由記述

①学校関係者

- ・屋台村方式で、気軽にお話を聞くことができ大変有意義であった。
- ・色々な職種の企業の方々から様々な取組を直接聞くことができ良かった。学校に帰って来年度の計画に検討したいと思いました。

- ・担当者の熱意が伝わりました。
- ・直接、企業・団体職場の方々の話を聞きながら、実際に実践可能なプログラムにはどのような物があるか考えることができました。企業側の思いに触れることができたのも良かったです。
- ・様々な企業が出前授業や受け入れを行っているのを改めて知りました。それらのリソースをうまくつなげていきたいと思います。
- ・こういう企業でインターンシップ受け入れや出前授業をやってくれているのかという新たな発見があった。できれば最初の数分でも良いのでポスターセッションのような形で企業宣伝をしてもらい、その後個別に色々質問するといった方法にすればさらに良いと思う。
- ・出前授業や職場見学等について直接話を聞くことができ良かった。東青地区以外の地域の企業、事業所の数がもっと多ければと思った。
- ・こういうものは、手前どもの宣伝になりがちであるが、私が話を聞かせて頂いたところはそういうこともなく、丁寧な対応で、感じが良かった。三八地区が少ないのが残念です。
- ・全部の方とお話しするには時間が無かったのですが、総合的な学習の時間、職業人講話のヒントを沢山いただきました。
- ・参加企業がより多ければ嬉しいです。各社の体験プログラムや出前講座の情報が入手できて良かったです。
- ・もっと多くの企業の話を知りたいと思いました。
- ・参加企業がもっとあっても良かった。
- ・企画は大変よいができれば県全域の出前授業をたくさん入れて欲しい
- ・小学生でも活動できるプログラムの紹介が少なかったのが残念でした。また、三八地域の企業の出展が少ないように思いました。三八地区の企業ももっと学校教育サポーターに登録すると活用しやすくなると思いました。
- ・1時間ではまわりきれなかったのももう少し時間が取れると助かります。地域(学区)を中心に出席講座を企画することが多かったのですが、市街まで出向いて下さる企業を多く知る機会にもなり、今後の取組に活かしていけると思いました。
- ・自分になじみのない地区の企業さんのお話を聞いてもピンとこない面があった。地区ごとにブースを分けてみるのも良いと思う。
- ・スペースや表彰の都合もあるとは思いますが、参加企業の地区に偏りがありました。均等とまではいかないと思いますが、各地区最低2つ以上の企業を呼べないものでしょうか？
- ・スペース的に狭かったので、じっくりと聞けなかった。

②企業関係者

- ・人に解りやすく伝えるということ、自分自身の勉強になりました。担当の方の事前の連絡が行きとどいていたので、スムーズに終えることができました。
- ・それぞれのタイミングと思考がよかった。
- ・各業種の方が来られ、話を聞かれる中、様々な問題が挙げられている中、1つの取組として参考になる事（話）が多くあった。
- ・学校におけるキャリア教育支援の広がりを感じた。できればもっと展示・紹介に参加する事業所等が多ければと思いました。

③行政関係者

- ・実際に担当者から話を聞いて良かった。
- ・企業の方々は接客に慣れているせいかととてもわかりやすく実践内容を説明してくれました。今の時代こうした社会貢献であったり、サービスを提供している責任を果たすであったりの視点から企業努力もされていることが分かりました。
- ・なかなか知るチャンスがないので、参考になった。ただ地区によって参加数の差が大きいと感じた。
- ・来年度も行うのであれば、もっとたくさんの企業等があれば良い。最初の年なので良かったと思う。
- ・時間をしっかり定めて数社でもいいので、事例発表のようなプレゼンを聞きたかった。
- ・会場を分散させず、1カ所にまとめる、もしくは会場は隣り合わせとする方が良かったのでは。

④PTA関係者、その他

- ・県南(八戸)からの参加でしたが、県南地域の企業等(三八地区)少ないのでこちらの声掛けもしてほしい。
- ・動画は非常に難しいのかもしれませんが、動画があればブースの中で何人来ても動画を見れば「感じ」がわかるのかな？と感じました。
- ・事業所や会社のパネルの上に地区名があればいいのかなと思いました。
- ・様々な取組を知ることができて良かったです。ただタイミングを逃してしまうと話を聞き辛くなるのが残念でした。
- ・企業毎に提示方法、テーマに差があり、「取り組み」が明確なところとそうでないところがありました。一つの大きな共通テーマがあると(もう少し具体的な)見易いかと思います。企業にとっても得ることが大きいことをPRしてほしいと思います。

6 パネルディスカッション

(1) 概要

①各パネリストの実践活動紹介と抱える課題

(永澤氏) 小中高の連携によるキャリア教育の実践に取り組んできたが、忙しい先生方には迷惑をかけた。キャリア教育の実践にあたっての課題は先生方が忙しいことと、時間的な制約の中で取り組まなければならないこと。

(竹園氏) 地区実行委員会では地区の小学校へ行って仕事体験出前授業を行う「ユメココ教室」に取り組んできた。児童、教員、講師となった企業の方からのアンケートでは肯定的に受け止めてもらっている。

課題は対応できる能力以上に学校から「ユメココ教室」の実施希望が来ること。時間を割いて来て下さる講師へ十分に謝礼できないこと。組織の維持について活動資金について不安があること。

(住吉氏) 高等学校PTA連合会ではキャリア教育に関する大会を年1回実施。

以前就職してもすぐやめる子どもたちを減らすために、高校2年生の生徒、PTA、進路指導部の教員とでワークショップを開催し、好評であった。この取組を各校のPTAの活動に広めたいと思っている。

(田中氏) 出前授業では、お菓子作りの古い道具を見せたり、お菓子の歴史を話したり、夢について語っている。また職人の仕事は失敗、挫折の繰り返しだが、その中で立ち直ることを伝えていきたいと思っている。課題は、仕事に対する対価について、子どもや(先生方にも)理解してもらうにはどうすればよいかということ。

(恒川氏) 未来図書館はH16年に子どもと社会をつなぐために設立。様々な試行錯誤をしながら活動を続ける中で、たくさんの学校、子どもたちを支援できるようなプログラムとして「未来パスポート」を作った。7年間で55校1万人の生徒、800人の大人が参加している。課題は11年活動を続けている中で、NPOの活動資金をいかに確保していくかが毎年の課題である。

②課題について考える

(平田氏) 大きい課題は以下の4つ

- ・学校の多忙感の解決方法
- ・お金の問題(謝礼、組織の活動等)
- ・活動を発展させること
- ・企業が子どもにどのように伝えていくか

この中からまずは多忙感について意見を

(永澤氏) 板柳中では、組織的にチェック機能を働かせ、業務を簡単にしようという努力を続けてきた。

(平田氏) 企業の立場として何かありますか？

- (田中氏) 学校は企業と時間の感覚が違い、打合せが円滑に進まないこともある。出前授業でどこまで話して良いのか戸惑うこともある。
- (恒川氏) 先生方は地域の情報を知る時間が無い。コーディネーターは地域の思いや、地域の人材を学校に伝えること。先生方にはいろいろな所に相談をして欲しい。
- (竹園氏) 学校現場は忙しい。そこで工夫としては企業との事前打ち合わせの際のチェックシートを作成し、学校との打合せの回数を減らすことができた。また、講師に事前インタビューを行い、それをまとめて学校に渡し子どもたちに予習してもらうことで、先生方の負担も減っている。しかしながら、学校の仕事に入り込み過ぎたのではと思うところもあり、どこまでパッケージングして学校に提供すべきか不安な部分もある。
- (平田氏) プログラムを作りすぎると先生が実施さえすればよいと誤解するので、コーディネーター養成に力を入れた経験がある。そこで、次は、コーディネーターに期待することを聞いてみたいと思います。
- (永澤氏) コーディネーターに期待することは、学校・企業の思いを調整しながら進めて欲しい。また、実践したものを資料化して誰でも呈覧できるシステムがあれば良い。
- (住吉氏) 企業人の立場としては、早目に依頼、計画が欲しい。PTAとしては、先生方に色々やってもらっていることに感謝。
- (平田氏) 保護者と学校、企業の連携はまだバラバラな感じがあります。どうしたらつながれるのでしょうか？
- (田中氏) 出前授業を通し、学校との連携を通して売上以上の学びを得られると考えている。互いに学ぶものがあるということで対話していくことが必要。とはいえ、年数回の受け入れならお金を考えずにできるが、数が多くなるとつらい。
- (平田氏) 教育支援をしたくても生活もあるということですね。教育支援とお金で意見がありますか。
- (恒川氏) 公的機関だとお金を使うことに有効性が求められるが、NPOだからこそ、学校と大人をつなぐために柔軟にお金を使うことができる。また、岩手県では、職場見学や体験が同じ時期に、同じ企業に集中し非常に大変な状況にある。先生方には、その中で受入れて下さっていること、企業があつて地域がある、日常が支えられていることを理解して欲しいと思う。長い目で見れば教育支援活動は、地域の顧客を増やす活動である。岩手には世界的な企業も多くあり、それを先生方に知って欲しい。
- (竹園氏) 現在地域の企業から協賛金を集めることも検討している。手が回らないが、学校によっては自前で、講師は保護者からという形で「ユメココ教室」を実施しようという動きも出てきている。

(平田氏) 企業から協賛金を集めるというのは全国的に始まっている。アスバシ教育基金でも協賛金を集めコーディネーターの人件費に使っている。色々な知恵を出してお金を集める方法を考えていきたい。

③最後に一言

(平田氏) 最後に一言、そして学校・家庭・地域（企業）の連携のために皆でできることをお話し下さい。

(永澤氏) 学校の授業、体験活動にリアリティを、子どもに響く指導をしたい。地域、家庭、事業所、行政には学びの素材が沢山ある。学んでいることが将来につながる事を実感させ学習意欲向上に結び付けたい

(竹園氏) キャリア教育を進めていくためのつながりが、地域づくりのためのつながりに広がっていけばよい。また、ユメココ教室を継続していきたい。

(住吉氏) 就職、進学は通過点である。働く中で学ぶことが多くある。対価について、お金を得るためにいろんな人が関わって協力している、それに感謝できるよう伝えたい。子ども自身に起こることについて、笑顔で、前向きに考えていけるよう育てていくためにもPTA活動は必要。

(田中氏) 職人は子どもの心が必要である。また、今の子どもは仕事を知った気になっているが、仕事は大変で逃げ出したいこともあるが、モノづくりは最高のこととリアル感を持って伝えたい。

(恒川氏) これからの社会をつくる子どもたちの未来に希望を持たせたい。学びの場をどう作っていくか、立場を超えて話しあえれば連携がうまくいくと思う。子どもと大人と語り合い、リアルを感じさせる場を作りたい。

(平田氏) キャリア教育を行っている人はみんなワクワクしている。そんな仲間同士のネットワークをつくって、自分の持っているものを少しずつ出し合っていければよい。その際にはコーディネートの仕事が大事になってくる。今は仕事にならなくても、仕事として確立させていくべきと思っている。

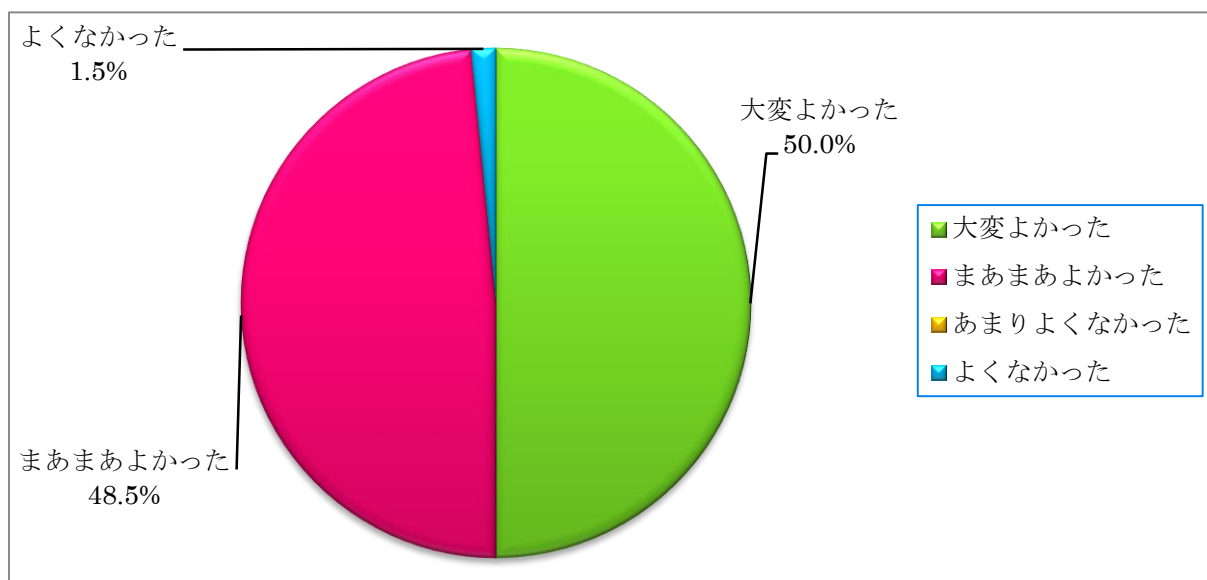
(2) ディスカッションの様子



(3) アンケート集計

パネルディスカッションはいかがでしたか (有効回答数：66人)

大変よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	よくなかった
33人(50.0%)	32人(48.5%)	0人	1人(1.5%)



(4) 意見・感想など※自由記述

①学校関係者

- ・5人のパネリストのお話しにリアリティがあり、有意義であった。企業側の課題やねがいと学校側の課題の解決は難しいかもしれないが、平田先生の講演にあったように互いに話し合っって妥協点を見つけるような活動が重要だと感じました。
- ・いろいろな見方、価値観でキャリア教育を捉えることができ、楽しかった。
- ・様々な立場からの課題、意見をお伺いすることができ、非常に参考になった。特に永澤先生からのお話しが教員として参考になりました。
- ・キャリア教育は学校の中だけで行うものではなく、横のつながりも大切そのためのコーディネーターが今後必要になってくるというのを聞いてなるほどと思いました。
- ・キャリアの教育のための活動を根付かせていくことが青森県の未来のためには必要なことだとあらためて感じました。コーディネーターの方のまとめ方も素晴らしいと思いました。
- ・活動の資金に関しては、学校としては拠出することが非常に難しい問題であり、企業も同じ課題を抱えているのであれば、解決は難しいと思います。県や国等の協力が必要だと感じました。

- ・今まで学校で取り組んできたことが、キャリア教育として良かったと実感しています。頭の中がクリアになり、これからの活動への動機づけが高まりました。キャリア教育が教員の多忙化につながるのではなく、実施側の取り組み方、意欲がそれらを意識させないものとすると思います。
- ・実際に取り組んだ方々の感じた問題点・解決策が参考になりました。
- ・プログラムよりも課題へ目を向けた流れで飽きずにお話しすることができました。
- ・活動をする人たちに勇気を与える建設的な意見が多くて良かったです。
- ・田重菓子舗さんの話は大変参考になった。老舗でしか感じることのできないことは、学校教育にもぜひ生かして欲しいと思う。
- ・それぞれの立場で考えてくれているんだな、わくわくしてくれているんだなと思いが伝わりました。小学校で一番困るのは、知らないから人。企業を呼ぶ選択肢が少ない、学校側が望んでいること、ゲスト側が伝えたいことの折り合いをつけるための打合せの時間が思うように作れないことです。(これも時間の制約か?) いろんな立場が分かったので、学校でできる工夫をしていきたいと思います。
- ・地域で働くことの大切さについて考えることができました。これからも地域の職業人を招いてこのようなパネルディスカッションができたらいいです。
- ・それぞれの方が一生懸命キャリア教育に取り組んでいる様子が分かりました。学校だけの中でキャリア教育を抱えず、地域にこんなに素敵な大人がいるのですから、どんどん子どもを地域に出す、連携をするという事を考えていくべきだと思います。
- ・コーディネーターの重要さが分かりました。
- ・「わくわく感」が一つのポイントなのかなって感じました。自分も学校も、子どもたちもその様なわくわく感を持っていければと思います。お金は難しい問題だと思う一方、そこをクリアすると学校、コーディネーター企業がみな win-win-win の関係が持てるのかなと思います。
- ・職業に対する意識の持ち方を、小学校のうちから培うことの大切さが分かりました。
- ・キャリア教育を目指し、企業や学校との連携の難しさもありますが、学校は学校で色々なキャリア教育となる取組もしております。学校内でもっと多くの取組を価値あるやり方で進めていけばよいと思います。
- ・課題の改善策について、もう少し絞って話を聞ければと感じました。
- ・キャリア教育を進める上で行政の立場からのコメントもお聞きしたかったです。

②企業関係者

- ・他の企業の取組、課題を知ることができ、参考になりました。

- ・様々な視点からのキャリア教育に対する意見を知ることができてワクワクしました。
- ・教育はお金に換えることのできないものである。しかし、それよりも大きい子どもたちの夢が替えることは素晴らしいことだと思います。もっと地域の素晴らしいところをPRし、町ぐるみの取り組みを考えなくてはならない。

③行政関係者

- ・それぞれの立場からキャリア教育について意見を聞くことができ参考になりました。実践していく上での難しさもありますが、全ては子どもたちのためという思いを共有している熱意を感じました。
- ・現場の多忙感、NPOなど維持のための資金など、現実にはむずかしいと聞きながら感じた。パネラーの皆さんの言う通りです。イベントではなく、日常的な取組の必要性を感じた。
- ・様々な分野のパネリストが一つのテーマについての意見が聞けて楽しかった。コーディネーターの進行もスムーズで聞きやすかった。
- ・もう少し時間があれば良かった。
- ・パネルディスカッションのテーマ「これからの・・・」が広すぎる。もっと焦点を絞ったテーマにすべきである（青森県のキャリア教育推進上の課題、または子どもたちの課題など）。

④PTA関係者、その他

- ・時間が足りないくらい充実していました。
- ・目からうろこでした。協賛金の問題は実行委員会でも課題となっており、各地区実行委員会同士連携していい案が出せればと思いました。
- ・コーディネーターという職種、陰の存在ですが、地域にコーディネーターは必要だと感じました。
- ・これからのNPOの活動の良い参考になりました。また実際に実践している活動内容、課題を聞かせて頂いて勉強になりました。

7 大会全体について

(1) 意見・感想など※自由記述

①学校関係者

- ・企業と学校が直にお話しできる機会が今日もてたことは大変有意義でした。また、基調講演はキャリア教育の進め方の道しるべとなりました。現場で先生方に紹介し、キャリア教育の全体計画、そして実際の教育活動に生かしていきたい。
- ・「提案！我が社の教育支援」はとてもよい機会、場の設定だったのでどんどんアピールしていただきたい。さらに多種多様な企業のプレゼンを期待しています。
- ・各企業との面談、参考になりました。
- ・本当に勉強になりました。また、このような機会があればぜひ参加したいです。
- ・今まで知らなかった情報を沢山得ることができたし、これからも地域を活性化させてあおもりで「働く」子どもたちを増やしていきたいと思います。
- ・非常に有意義でしたので、今後も定期的に継続して開催されればと思います。
- ・これからさらに「キャリア教育」の輪が広がるといいなと思いました。
- ・素晴らしいパネリストの方々の実践を踏まえたお話しがとてもよかった。
- ・キャリア教育が県で大きくクローズアップされているのは分かっているけども文面や渡った資料でしか知らなかったのが今日はリアルな学びができて良かった。
- ・今大会に出たことで、我々教員が学校内でどのように取り組めば良いのか指針をもらえました。
- ・来年も参加して良い刺激を受けたいと思います。学校としては一次案内を早めにほしいと思います。2次案内は今年ぐらいの要項でいいと思うのでお願いします。
- ・教員の立場で言えば、長期休業中（夏休み、冬休み）の開催の方が参加しやすいです。
- ・司会者には、舞台袖ではなく参加者から見える場所で進行をお願いしたいです。どこで話しているのか分からないと誰に対して話しているのか伝わりにくいです。

②企業関係者

- ・初めて参加しましたが、自分達が行ってきた活動の意味を再確認すること、また気付かなかったメリットがあること感じました。今後も続けていきたいです。
- ・キャリア教育についての考え方を新たにすることができ、様々な方へ伝えることができたので、参加して大変よかったと感じています。
- ・時代の変化と教育や子どもたち、労働環境が追いついていないところが様々な原

困になっていると感じました。

- ・とてもよいプログラム内容で勉強になりました。ただ参加者が少なく、もっとたくさんの方に参加していただけたらと感じました。
- ・たくさんの教育を担当する方々に聞いて頂きたい内容でした。地域全体の取り組みが青森県を救う力となることを知って欲しい。

③行政関係者

- ・今年度社会教育でもキャリア教育の推進を明確にしたということで参加することになりました。町内会や子ども会等へも発信して学習の機会を広げていければと感じた大会でした。
- ・今後も、同様の研修の場があれば参加したいと思います。
- ・学校現場からの参加が少ないこと、一般（企業）からの参加が思ったより多かったこと、学校現場から参加したいという意識を向上させることが（多忙感もあると思うが）推進の手がかりになるのではないのでしょうか。
- ・内容の割に参加者が少なかったのが残念です。
- ・学校現場への周知をもっと早くお願いします。もっとたくさんの人の参加が望まれる。来年度も継続して欲しい。
- ・司会者は参加者に見える場所で進行して欲しい。

④PTA関係者…なし

+

第44316号

(第三種郵便物認可)

キャリア教育推進 地域・家庭と連携を

青森で大会

県教委は19日、青森市の県総合学校教育センターで「あおもりで『生きる・働く』を学ぶキャリア教育推進大会」を開いた。教職員やPTA、企業の関係者ら約220人が参加し、学校・地域・家庭が連携したキャリア教育の在り方を考えた。

パネルディスカッションでは、一般社団法人まなびの応援団(名古屋市)代表理事の平田節子さんがコーディネーターを務め、県内外でキャリア教育に携わる5人が意見を交わした。

盛岡市のNPO法人未来図書館主任コーディネーターの恒川かおりさんは「学校の先生は多忙で、地域にどんな人がいるか発掘する時間がない。抱え込まずにいろんな機関に相談してほしい」と話した。出前授業の講師を務めている七戸町の田重菓子舗店主の田中歌織さんは「地域の事業者側も、学校や生徒から売り上げ以上の学びを得るといふ考えを持たなければならぬ」と述べた。

(大友麻紗子)



学校や事業所の関係者、コーディネーターらが今後のキャリア教育を考えた。パネルディスカッション